

分科会F | 【ライフ・ワーク・バランス】

講演、事例発表、パネルディルカッション

一人一人が輝く未来 ～モノづくりの愛知から～

■日時：11月14日(土) 10:00～11:30



<講師・パネリスト>

中根 弓佳

サイボウズ株式会社執行役員

<コーディネーター／パネルリーダー>

細見 純子

一般社団法人中部品質管理協会
経営企画室長／トヨタ自動車株式会社
認定講師（問題解決／自工程完結）

<事例発表者／パネリスト>

小森 麻希

アイシン精機株式会社人事部
AR人事企画戦略グループ担当員

光田 芽衣子

日本特殊陶業株式会社経営管理本部
労務部労務企画課

魚住 理沙

SCSK株式会社人事・総務グループ
人事部西日本・中部人事課課長

報告要旨

報告者：細見 純子（コーディネーター／リーダー）

1. 取り組む課題

誰もが社会や組織で生涯働く時代に入り、その働き方や生き方も様々なあり方が出てきて、集団より個を主体にした価値観も芽生えてきた中で、ここ愛知は製造業が集積し、社会・産業・組織においても標準化の意識が根強い。また、全国に比して「多様性を前提とした女性活躍度」や「ライフ・ワーク・バランス」の取り組み数値が低いのが現状。組織や地域における、この顕在的、そして潜在的な課題をも明確化し、その是正策を一緒に考えて、自組織に対し少しでも取り組んでみる。また、組織変革の前に、まずは自分らしく生きる、輝くというあり方を、参加メンバーと主体的に取り組む。

2. 目的

あるべき姿として「一人一人が自分らしい人生の選択ができる多様性が認められる社会、組織」を描きながら、現状とのギャップを明確化し、そこに存在する課題を研究し、是正に取り組む。この日本女性会議で、その研究した事例や取組事例の共有を図り、自分たちや身近な地域はもちろん、日本全国の課題是正に貢献する。

3. 概要

「100人100通りの働き方」をかけたユニークな組織のあり方を実践しているサイボウズ(株)の人事執行役員を招聘し、その取り組みの根底の考え方、価値観など何うととも、分科会メンバー3社から自組織の取組事例を紹介。参加者にも所要所でアンケートにて意見を聴きながら、登壇者同士で「誰もが幸せに活躍する組織、社会とは」をテーマに意見交換し、近未来の生き方、あり方を提言。

(1) 招待講演：講師 サイボウズ(株)執行役員 中根 弓佳氏

「100人100通りの働き方～ひとりひとりのワクワクこそがイノベーション～」

中根執行役員ご自身の取り組み（副業、時間・場所の選択等）を紹介いただきながら、講演テーマでもあるサイボウズの人事方針と、その具体的な施策を紹介頂く。

(2) 分科会メンバー企業取組事例紹介
“モノづくり”から“コトづくり”へ～

これまでの工業化が意味するところと、変革の今、これからに迫られている課題について、解説を提示し、その後、以下3社の取り組みを紹介

①日本特殊陶業(株)〈光田〉

“製造業の働き方改革”-外部人材の積極登用、適所適材に合ったシステム構築、カンパニー制や分社化導入、社名変更等で変革へ。

②アイシン精機(株)〈小森〉

社長自らが“働きがい改革”を提示。仕事における新たな価値創造と人生の充実を描くビジョンをあげ、具体的には「職場の関係の質」に着目した取り組みを実施。

③SCSK(株)〈魚住〉

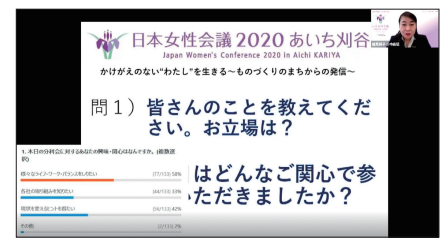
“多様なプロフェッショナルが活躍・成長し続ける会社”を目指し、シニア活躍、女性活躍、健康経営や組織内外で学び続ける機会の提供等の取り組みを実施。

(3) パネルディスカッション コーディネーター〈細見〉

コロナにより「働き方」「ライフ」はどう変わったのか、変わらなかったのかを参加者にも聴きながら、すでに変革に取り組んでいる登壇者間で「今、これらを私らしく輝くには」について意見交換。「人間は、ひとりひとり異なる自分の時間がある」という認識をもち、「これからともに創る未来はSDG'sに根差した利他的で循環型の社会」であり、皆が幸せであるために「自己受容」「他者受容」「共同体感覚」を養っていこうと提言。

(4) 所感

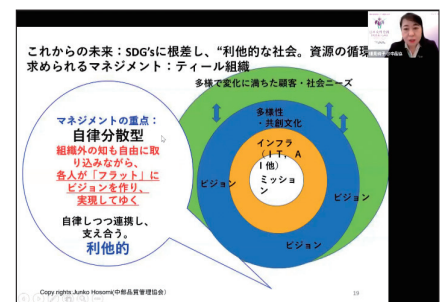
サイボウズ(株)の働き方改革の考え方や取り組みは大変先進的で大変参考になった。今回紹介したメンバーの企業の取り組みにも共通するのは「働き方の多様化を推進するキーは個人戦でなくチーム戦に持ち込むこと」。「関係の質」を重視した組織と仕組みを醸成することが、一人一人を活かすことになる。最後に宮沢賢治の「世界の全体が幸せにならないうちは、個人の幸福はありえない」を提示し「我慢しあうのではなく、お互いのやりたいことを支え、応援する」ことが一人一人輝く未来になると信じる次第。



4. 成果 参加者の声

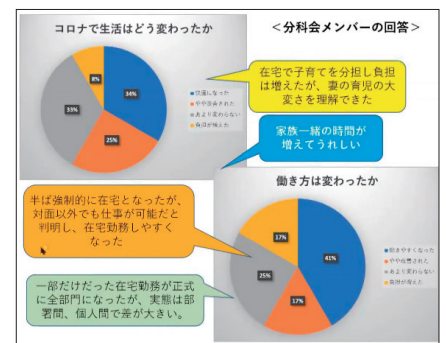
オンライン開催で全国（北海道から沖縄まで）からの多様な属性（男性、女性、企業人、行政、学生、教育等々）に視聴いただけた。一方的なLIVE配信にならぬように、冒頭に全参加者から参加動機や関心事をオンライン上のその場でアンケート参加いただき、またパネルディスカッションでも、参加者のコロナ禍での変化の有無をアンケート調査したことは大変評価いただけた。

内容に対しては、サイボウズの先進的取組が、その考えから大変参考になったこと。また途中の解説で製造業の特性がよく理解できたということとともに、製造業を含む分科会メンバー3社の考え方と取り組みは、これから働き方改革に本格的に取り組むたいと感じている企業や組織にとって、まず一步を踏み出す、参考になる取り組みがいくつもあったとの意見が多かった。



5. 今後に向けて

コロナ禍で、いままではこの製造業の愛知では遅遅として進まなかった「在宅勤務」が断行され、「時間や場所にとらわれない働き方」が始まった企業が多くなった。しかし、これからが本当の始まり。その先にある「働きがい」や「ライフ・ワーク・バランス」を意識した一人一人のあり方変革へと進めていくために、この大会でつながった縁に感謝しつつ活動を継続し、地域で継続的に広く情報共有する場を設けていければと願う。



●企画メンバー

細見 純子 伊藤 仁美 魚住 理沙 小森 麻希 佐野 和子 長谷川知沙 藤原なるみ 松本 佳津
光田芽衣子 森安 美月 吉安恵美子